

## 2025年度「日本語教育学位取得プログラム修了証」取得のための履修要項

一橋大学言語社会研究科第2部門

「日本語教育学位取得プログラム修了証」（以下、「修了証」）とは、言語社会研究科の修士課程の修了要件を満たし、かつ、日本語教育学位取得プログラムの指定授業科目（表1および別紙「日本語教育に関する教育課程の5分野と配当科目」を参照）を一定の条件を満たして修得した場合に、通常の学位記のほかに授与されるものです。

この「修了証」の取得を目指す方は、以下の注意事項をよく理解したうえで、時間割を組むようにしてください。計画的に履修していかなければ2年間での取得が難しくなります。

なお、この修了証は、修士課程の修了要件ではありません。修了証を取得せずに、修士号をとって言語社会研究科の修士課程を修了することも可能です。

### (1) 修了証取得に必要な単位数 ※修士の学位の修了要件ではありません。

同プログラムの授業科目は以下の5分野からなります。修了証を取得するためには、表1のとおり、各分野に定める単位数を修得し、かつ、合計26単位（実習科目2単位以上4単位以内を必ず含むこと）を修得してください。

表1 日本語教育学位取得プログラム修了証授与に必要な分野別単位数

分野	単位数	( ) は実習単位数
1. 社会・文化・地域	4	
2. 言語と社会	4	
3. 言語と心理	4	
4. 言語と教育	8(2~4)	
5. 言語一般	6	
合計	26(2~4)	

#### ※【注意】

言語社会研究科の修士課程修了には、「言語社会研究科の科目20単位以上、演習8単位以上」という決まりがあります。他研究科の授業については、この要件が満たせるように、計画的に履修してください。

### (2) 各分野に該当する授業

- 各分野に該当する科目については「日本語教育に関する教育課程の5分野と配当科目2025」のファイルを参照のこと（入学年度により該当となる科目が異なります）。
- 開講曜日や時限、開講形態、担当者については、変更されている場合があります。必ず、シラバス等で確認してください。
- 他研究科（社会学研究科）、他部門（言語社会研究科第1部門）の科目は、日本語教育専攻の学生だけのために開講されている科目ではありません。授業内容が日本語教育専攻の学生に資するものとの判断から、プログラム対象科目として開放されている科目です。

### (3) 実習参加資格

実習には、一橋大学国際教育交流センター内で行われる「国内実習」と、ベトナム・マレーシアで行われる「海外実習」の2種類があります。実習に参加するためには、以下のとおり、一定の条件を満たす必要があります。

#### 【国内実習注意事項】

1. 日本語教育未経験者の場合、国内実習の履修が「日本語教育学位取得プログラム修了証」の取得条件となります。海外実習のみでは、修了証を取得できません。
2. 2026年度（修士2年目）の春夏学期の国内実習に参加するためには、2025年度中に以下の条件を満たす必要があります。
  - ①日本語教育経験の有無にかかわらず、秋冬学期(春休みの集中講義含む)に「日本語教育学講義J」を修得していること。
  - ②日本語教育経験がない場合は「日本語教育学講義A」を春夏学期に修得していること。（「日本語教育学講義G」（春夏学期）も実習前に修得していることが望ましい）

#### 【海外実習注意事項】

1. 実施期間は、1年次、または、2年次の秋冬学期です。

ベトナム実習は春休み期間（2026年2月中旬から3月中旬のうち2週間程度）に渡航します。授業期間中に加え、授業期間終了後の1月にも準備を行います。なお、国際情勢等諸事情等により、ビザの取得や渡航自体が困難になった場合は、実地での教育実習はできません。
2. マレーシア実習は、秋冬学期の授業期間中に渡航するため、受講中の授業をいくつか休むこととなります。担当教員に必ず許可を求めてください。第2部門の授業については一定の配慮が得られますが、他部門の授業については「欠席扱い」となることもあります。それにより成績に不利益があっても、部門として責任は負いません。
3. 実習期間すべてに参加できることが実習応募の条件です(部分参加は認められません。また個人的な理由による延長滞在も認められません)。
4. 海外実習には定員があります。希望者多数の場合は、選考を行います。また、最小催行人数は2名とします。
5. 渡航に伴う費用が発生します。費用は年度によって異なります。

例年どおり、渡航費・宿泊費に助成金が獲得できれば、参加者のプログラム費用の負担は5万円程度と予想されます。（食費や個人の活動費別）。2025年度については、助成金取得の可否も含め、未定です。
6. 日本語教育未経験者は、海外実習のみの履修では「日本語教育学位取得プログラム修了証」を取得することはできません。
7. 日本語教育経験者は、海外実習のみの履修でも「日本語教育学位取得プログラム修了証」を取得することができますが、実施の可否、参加費用・VISA取得可否等が不透明なところもありますので、海外実習のみの履修で修了証取得を目指すことはお勧めしません。

#### (4) 登録日本語教員の資格取得との関係

本プログラムを修了しただけでは、国家資格である「登録日本語教員」にはなれません。本プログラムは、「5区分の教育内容を実施していることが確認できた現行告示基準教員要件に該当する養成課程等」に該当します。「現職者」としての条件を満たすことで、令和11年までの間であれば、以下の経過措置（D-1ルート）が受けられます。D-1ルートとは、以下の条件を満たせば、「基礎試験」および「実践研修」が免除されるものです。

##### <資格取得の条件>

- ①令和11年3月31日までに大学又は告示基準校で1年以上の教育経験があること
- ②本学の「日本語教育学位取得プログラム修了証」を得ていること
- ③文部科学省の指定する「講習Ⅱ」を受講し、講習修了認定試験に合格すること
- ④登録日本語教員試験の「応用試験」に合格すること

#### (5) 履修モデル

下記の履修モデルを参考にして、各自で履修計画を立ててください。

(日本語教育未経験者がプログラム修了証を希望し、国内実習に参加する場合のモデルです。この通りでなくてもかまいません。)

#### 2025年度 春夏学期

5分野にまたがり、興味に合わせて多様な科目を履修しましょう。(ゼミを除いて、4~5科目程度が理想です。授業の取り過ぎに注意)

※ただし、来年、国内実習を取る人は、来年の春夏学期はあまり履修の余裕がないかもしれませんので、そのことも考えて履修科目を考えましょう。

分野Ⅰ 社会・文化・地域	}	この5分野の中から3~5科目ほど (ただし、ゼミやプログラム以外の科目も合わせて 多くても合計週 <u>7科目程度</u> にしましょう)
分野Ⅱ 言語と社会		
分野Ⅲ 言語と心理		
分野Ⅳ 言語と教育		
分野Ⅴ 言語一般		
(推奨科目) 日本語教育学講義 A 西谷 (火曜1限)	日本語教授法入門	
	※国内実習履修予定の日本語教育未経験者は必修	
日本語教育学講義 G 太田 (水曜1限)	日本語教育学の基礎	
日本語学講義 B 庵 (水曜2限)	日本語学の基礎	

#### 2025年度秋冬学期

国内実習に向けた準備に取り掛かりつつ、引き続き、多様な科目を履修しましょう

日本語教育学講義 J 太田（火曜 3 限）

※国内実習履修予定者は経験の有無に関係なく全員  
+ 同じく分野 I ~ V から 2~3 科目ほど（分野ごとの必須単位数に注意）

+ 海外実習希望者は、ベトナム実習：日本語教育実習 C（月曜 1 限 + 春休み準備）

マレーシア実習：日本語教育実習 D（火曜 1 限）

※マレーシア実習参加者は日本語教育経験者であることが望ましい。

## 2026 年度春夏学期 いよいよ国内教育実習を行います（希望者）

「国内実習 A または B」（開講時限未定）

大学院の授業の時間に実習授業のリハーサルを行い、センターの実際の日本語科目で、正規の留学生を対象に日本語のクラスを担当します。実習後には授業の振り返りを行います。

→2 コマ分 + フィードバックの時間を確保する必要があります

※国内実習、修士論文執筆、そのための主ゼミ副ゼミの履修、さらに人によっては就職活動などを考えると、この学期には、実習以外の他の講義科目を履修する余裕はあまりないと思われます。履修するとしても 1~2 科目くらいでしょう。

## 2026 年度秋冬学期 いよいよ修士論文の提出です

この学期に、5 分野の必修単位でまだ取得していない科目を履修する必要があります。  
修論執筆と並行して履修するので、1~2 科目程度となるのが一般的でしょう。  
修了時に修了証取得のための単位が足りているか、よく確認してください。

※履修計画をたてるにあたって

- ☑ 26 単位をご自身の学習計画に合わせて、バランスよく効率的に取るように工夫してください。今学期の時間割だけでなく、2 年間のスケジュールを立ててみて、26 単位を分野ごとの割り当てに沿って履修できるかどうか、必ずチェックしてください。
- ☑ 修士論文と並行して、修士 2 年目の春夏学期に国内実習を行うのは、とても大変です。就職活動も考えている場合は、なおさらです。計画的に授業を履修し、修士論文についても早めに進めておきましょう。
- ☑ 大学院の授業は単に出席すればよいのではなく、各科目それぞれ、準備や課題に取り組むための十分な時間の確保が必要です。授業を詰め込み過ぎないように、指導教員とも十分相談のうえ、時間割を組んでください。（一般に、講義科目 5 つ程度、ゼミを入れて 7 つ程度が上限です）
- ☑ 来年度の授業の開講曜日・時限は今年度と同じとは限りません。変更されることも念頭に置き、余裕のある計画を立てましょう。

履修について相談したいことがあるときは、下記教員までお気軽にお問い合わせください。

〔問い合わせ先〕 庵功雄 : a041115y@r.hit-u.ac.jp（第 2 部門責任者）

太田陽子 : yoko.ota@r.hit-u.ac.jp

早川杏子 : hayakawa.k@r.hit-u.ac.jp

西谷まり : mari@econ.hit-u.ac.jp